

今日のテーマ

面接解禁 ホントのところは…

北海学園大・佐藤大輔教授

仕事観を模索して

# 内定 二極化進む

2018年春卒業予定の学生を対象にした経団連加盟企業などの採用面接が1日、解禁された。非加盟や外資系の企業などからは早くも内定(または内々定)を得ている学生もおり、周りの動きも気になるところだ。道新夢さぼでは、道内の学生や大学に聞き、内定の状況や企業動向の「ホントのところ」を探った。(道新夢さぼ取材班 斉藤千絵)

先月29日に札幌市内で開かれた合同企業説明会。札幌のほか、帯広や旭川など

の72社が集まった。ある女子学生は「内定をもらったけど、卒業ギリギリまで就活を続けたい」。別の男子学生は「内定はまだ。就活を終えた友達の話や聞くと焦る」とため息をついた。

## 就活生たちの声



①Nさん(北大・女性)

2月に大手人材会社に内々定をもらい、就活を終えた。自分の人生で大切にしたい軸を持ち、企業の人に実際に会って話を聞くことで納得する就職先を見つけた



②Mさん(酪農学園大・男性)

製菓会社や食品卸に興味がある。大学の授業が忙しく、実際に受験したのは2社のみ。食の安全や地元産食材にこだわる企業を探したい。これから勝負だ



③Aさん(関西の大学・女性)

小樽出身なので、業種は問わずに札幌近郊ですべて働ける企業を探している。家族が年をとった時、そばにいたいので、12、13社受け、最終面接中のところもある



④Hさん(小樽商科大・男性)

3月から就職活動を始め、16社受けたが続行中。内々定が出た友達もいて焦る。安定した有名企業がいいと思っていたが、今は雰囲気ややりがいを大切にしたい



⑤Sさん(道教大札幌校・女性)

2社から内々定をもらったが、就活を続けている。最初は内定をもらうことに一生懸命だったが、最近、本当にこの企業で働きたいのかなと迷い始めたので

就職情報サイト「リクナビ」を運営するリクルートキャリア(東京)の直近の調べによると、全国の18年卒の大卒内定率は、5月1日時点で35.1%で、前年同期より10.1%高い。この傾向でいくと6月1日時点では、前年同期が50%を超えていたため、60%近くなることも予想される。

ただ札幌市内などの複数の大学に聞くと、道内の内定率は6月1日時点で25~30%程度とみるところが多い。ある私立大の就活担当者は「就職情報会社の調査は就活に積極的な学生の傾向が強く出がち。実態は内定を多く得ている学生とそうでない学生の二極化が進んでいる」と説明する。



友人たちの就活の進み具合が気になる時期ですね。でもみなさんが今、向き合うべきは、自分自身です。小手先の就活テクニックで乗り切ろうとするのはやめ、自分の価値観や仕事観を本気で探りましょう。それが実は、内定への近道なのです。その際に大切なのは、消費者目線ではなく、働く側の視点で社会の出来事に向き合うことです。

興味を持ったニュースについて友人や家族と意見を言い合ってみましょう。自分が社会に対して何をしたいか、その軸が自然と見えてきます。軸が分かれば、志望動機も書けるし、入社後のミスマッチも少なくなる。みなさんが、それぞれ納得した仕事を見つけられることを願います。

また就活が短期決戦となる中、学生に内定を辞退された企業や、じっくりと優秀な人材を見極めたい企業が、夏以降に採用を行うケースも増えている。経団連の16年度の調査では、多様な選考機会を設ける、または今後、設けるとした企業は合わせて9割を超えた。

選考がこれからの企業は、北海道中小企業家同友会の就活サイト「ジョブウェイ」や、各大学の求人票を参考にしてみよう。有名でなくても国内シェアが高い優良企業や、自身の価値観に合うオンリーワン企業が見つかるかもしれない。